

子どもの私に今できること



大田区立御園中学校 三年 安田 光希

私は昨年十月、区の取り組みとして行われている海外派遣に参加しました。

その出発直前、私は母から「たくさんの人によって納められた税金が使われていることを忘れずに行ってください。」という言葉を受け取りました。そのとき、将来を担う私たちの活躍を期待して多くの税金が使われていることを自覚し、その期待に恋えられるような態度でこの海外派遣に臨みたいと強く思いました。私は海外派遣を通して異国の人と関わる上で、自分の思いを一生懸命伝えようとする気持ちは何よりも大切であると実感し、グローバル化の進む今、「コミュニケーション能力が重要視されていくのだろう」と感じました。海外派遣は私にとって非常に貴重な経験となり、ものの方や考え方が変わるきっかけにもなりました。このように、税金は子どもたちの可能性や視野を広げるきっかけとなっているのです。

では、未来を担うこともたちのために、どれだけ多くの税金が使われているでしょうか。例えば中学校の場合、教材費や授業料は税金によって支払われています。財務省の公式ホームページによると、一年間で中

学生一人当たりに使われる税金は約九十七万九千円にも及ぶそうです。東京都の中学生は約二十二万人いるため、推定二千五百十三億円もの税金が一年の間、東京都内で使われていることがわかります。私は、想像していた以上の金額にとっても衝撃を受けました。それと同時に自分はその金額に相当するような努力ができているのだろうかと考えさせられました。思い返してみると、私たちは学校の中で自由に電気や水を使い、当たり前のように授業を受けるこの環境に慣れてしまっているように感じます。また、それと同時に税金に対する感謝の気持ちも薄れているのではないかと思いました。節水や節電は二酸化炭素排出量を抑えるだけでなく、税金を大切に使うことにもつながります。当たり前前に思っていることを見つめ直すことは簡単ではありませんが、そうすることによって自分の忘れかけていた大切なことに気づくことができるのではないのでしょうか。自身の行動を今一度見直して、一回一回の授業に感謝しながら取り組めるようにしていきたいと思えます。

子どもの私たちに今できることは「中学校で精一杯学ぶこと」です。母の言葉にもあった通り、たくさんの人によって納められた税金であることを忘れずに行動することは税を納めている人への恩返しにもなると思います。自分が海外派遣を通して学んだように、自分も将来、地域や社会に貢献して子どもたちの可能性を広げられるような大人になりたいです。